

## ● 2015 年の世界の主な火山活動

平成 27 年（2015 年）に噴火が報告された主な火山（日本を除く）\*は図のとおりである。  
このうち顕著な活動がみられた火山は以下のとおりである。

### カルブコ（Calbuco） チリ（図中 A） 標高 2,003m

4 月 22 日 18 時 04 分に噴火が始まり、噴煙の高さは 15km に達した。噴火を受け、火口から半径 20km の中が避難範囲となり、住民は避難命令を受けた。道路や橋は灰で通行できなくなった。4 月 23 日 01 時からは 2 回目の大きな活動が始まった。噴煙は 15km 以上上がり、火砕流は最長で 7km 流下し、土石流は 15km 流れ下った。およそ 5,000 人の人々が避難し、チリ政府当局は、土石流の心配のため、沢筋から 200m 以内の範囲には入らないよう警告した。24 日以降も噴火が続き、これまでに避難者数は 4 月 24 日から 26 日にかけて 6,514 人に上った。火山に近いエリアでは、降り積もった火山灰の重さでつぶれた家もあった。また、新聞記事によると、国内外の大都市を結ぶ航空機に遅れやキャンセルが出た。噴火活動はその後低下した。

### シナブン（Sinabung）インドネシア（図中 B） 標高 2,460m

2013 年 9 月 15 日の噴火開始以降、噴火活動が継続し、2015 年も溶岩流及び火砕流が断続的に発生した。

2 月 20 日には大規模な噴火が発生し、噴煙が海拔 13.7 km まで上昇したことが衛星画像等から確認された。また、6 月に発生した噴火により、溶岩流や火砕流が山腹を流れ下った。インドネシア当局によれば、この噴火で 10,184 人が退去や 10 の避難所に収容された。

### シベルチ（Sheveluch）ロシア（図中 C） 標高 3,283m

1 月及び 2 月の期間を通して、北山腹にある溶岩ドームの成長が継続し、爆発的噴火が繰り返し発生した。1 月は、7 日に発生した爆発的噴火により小規模な火砕流が発生した。また 10～12 日及び 15 日に発生した爆発的噴火により噴煙が海拔 6～10km まで上昇し、12 日には南西に 50km 離れた村で降灰が確認された。2 月は、1 日及び 8 日に発生した爆発的噴火で、噴煙が海拔 9～10km まで上昇した。また、28 日には、噴火に伴う火山灰により、西アラスカの数本の航空便が欠航となった。3 月以降も活発な噴火活動は続き、火砕流や溶岩流が断続的に発生した。

### リンジャニ（Rinjani）インドネシア（図中 D） 標高 3,726m

噴火は 10 月 25 日から始まった。ダーウィン航空路火山灰情報センターによると、噴煙は南から北西方向にかけて流れた。また、11 月 4～10 日にかけては、噴煙が海拔 4.3～6.1km まで上がり、740km まで流れた。ニュース記事によると、同国のロンボク国際空港は 11 月 3 日から 10 日まで閉鎖されるなど 3 つの空港が一時閉鎖した。観光客や住民は半径 3 km 以内の火口内には近づかないよう警告された。



図 平成 27 年 (2015 年) に噴火した主な火山 (日本を除く) \*

\* 米国スミソニアン自然史博物館のホームページ “Global Volcanism Program | Smithsonian / USGS Weekly Volcanic Activity Report” ([http://www.volcano.si.edu/reports\\_weekly.cfm](http://www.volcano.si.edu/reports_weekly.cfm)) による。日付は全て現地時間。火山名の読み方は、原則として気象庁:「火山観測指針 (参考編)」による。